柳柳絮

第一回課吟發表

平吟社同人互選

△内談

四點句

内談へ娘又かのお茶を立て　東天紅

叔母さんが又かと娘胸さわぎ　花笑

内談が濟んでお酌に手を鳴らし　新坊

内談に給仕怖づ々茶を運ぶ　仝

三點句

來客を待たし茶の間に聲をのみ　一角

内談の傍に小猫の眼が光り　空笑

内談に課長へ思ひ切つた折　文狂

二點句

内談で濟まず疑獄が表沙汰　狂水

内談が濟んで離亭の高笑ひ　東天紅

内談を娘うすゝ知つて居る　狂水

内談を母親にする事が出來　獨人山

内談に立聞きイヤな女なり　仝

内談を察し中止を愚でする　默尊

一點句以下省略

美味で評判の
遠藤パン
（平驛前）

内科・胃腸科・婦人科
十二指腸虫病科
花柳病科・×光線科
松村病院
平町南町電話一〇七番

内科・外科・耳鼻
咽喉科・花柳病科
高久病院
平町田町電話五一三番

内科・外科・花柳病科
耳鼻咽喉科・婦人科
赤心堂病院
平町田町電話四七五番

◆◆◆ 處方調劑
◆◆◆ 工業藥品
◆◆◆ 染料藥品
渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
（郵便局向）

◎おいしいものは
誰方でもた好きです
早くマツモトヤの甘納豆を
召上り下さいまし
平町四丁目
マツモトヤ
電話二一四番

元造醸
鹽屋本店
電話二七番

店員募集

十四才より十七才まで

眞面目な商人を養成仕るべく
萬事家族的の待遇に候へば御
希望の向きに依り
御本人の給料、積立、獨立、方針、に
付き御面談申上度く是非
御申込み願上候
尚ほ目中在學中に候へし場合は
雇入方を豫約致し置くも差支へ
無之候
平町鍛冶町（電話二二一番）
金吉田屋呉服店
吉田由三郎

株式賣買中値
電話に金融致します

銘格	拂込	時價
磐城銀行	四〇、〇	四五、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一二、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四二、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一二、五	一二、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二五、〇
同　新	一五、〇	一九、〇
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同　新	一二、五	一六、〇
七七銀行	一二、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	四二、〇
同　新	二五、〇	一九、五
只見川電	一二、五	七、五
植田水電	一二、五	一五、五
好間水電	一二、五	一三、〇
磐城建物	二〇、〇	五、〇
磐城製菓	五〇、〇	二、五
平信託	一二、五	二五、〇
磐城勸業	三〇、〇	二六、〇
植田物産	二五、〇	一三、五
平製氷	五〇、〇	一八、〇
好間軌道	三〇、〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	八、〇
磐城岸礦	五〇、〇	四一、〇
同　新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六二、五
同　新	三五、〇	四二、〇
平運送	二二、五	八、〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱
申候間多少に不拘御用命願
上候

平町田町　電話三二二番
丸登株式店
川添房二郎

常磐毎日新聞

十一月五日　夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月拾錢　郵税五厘
廣告　五號十二字詰一行　一ヶ月　五十錢
休刊日　曜日　祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町鍛冶町十一番地
印刷所　本社專屬　磐陽社

發行兼編輯人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町拾五番地
發行所　常磐毎日新聞社
印刷人　川崎文治

隨筆

川崎氏へ

東北毎日新聞社
松本萬有

拜呈　小生未だ貴下に面識無之ものなれども、本日貴下御經營の創刊一週年號を手に致しまして、自らの曾つて味ひし喜悅を追憶し唐突ながら、聊かお慶び申し上げたいと思ひます

狹少なる區域に於て、新聞を製作することの痛苦、經營することの難義は、紙面の大小に拘りませんが、これを毎日出すことは、一層痛切の甚だしいものであります。小生なども大正九年二月十一日社屋の建築に着手し、五月廿九日第一號を出しましたが、それから既に今日までに四ケ年と滿五ケ月、金持ちの補助は未だ一文も貰はず、政黨からは鐚一文も受けず全く獨立でやつて參つたゞけ、未だに業礎ならず、日夜營々として辛苦を重ねて居りましても、一向にウダツがあがらず、こんなことで先々どうするかと親戚やら知己やらから危まれて日を送つて居る狀態で、新聞を經營する人を、他に發見するとき全く自分に同情する如き心で、同情禁ぜざるものがあります。而も御同樣、一日毎に一號づゝの號を重ねて行くことを考ふる時そこに實に、欣快云ふべからざるものがあります、草忙たる時間の裡にその日の編輯を終つて大組の生々した版が機械の上に乘つたのを見る時、まあ今日一日の努力は酬ゐられたと、本當に喜悅の涙を浮べたことが幾度でしたらう、小生も一週年に記念號を出しました、更に二週年、三週年、そして今年五月廿九日に四週年を出しました、その時毎に實に人に語り得ない悲しみの喜びが胸一ぱいに湧くのでした

（續く）

品川白煉瓦が鐵相に九萬圓請求

昨日訴訟を提起

瀘車の飛火で火災の損害

平町彌宜町に煉瓦ヶ造の工場を有する東京府上品川町品川白煉瓦株式會社にては大高、小野寺の兩辯護士を代理人として鐵道大臣仙石貢氏を相手取り昨日東京地方裁判所へ損害賠償金九萬七千四百廿九圓五十五錢の請求訴訟を提起したが其理由は昨年九月廿日被告鐵道省經營の平驛から出た汽車の煤煙が前記彌宜町の工場に飛火し建物七棟を全燒三棟を半燒した夫れは被告等が煤煙の噴出防止に適當な設備不完全の爲め重大な過失に基くもので其の損害高は十二萬八千三百卅九圓五十五錢に達したが保險金二萬九百十圓の支拂を受けた爲め實際上の損害は前記金額となつたのであると

發電所問題には近く斷案を下すと

香坂知事が眞意を洩らす

伏見助役が會見

大瀧發電所問題に關して去る二日知事に面會して來た伏見助役の談に依ると知事は平電氣の栗原以下が收監された爲め同社より徵すべき取扱上の書類が纏らなかつた關係で其裁斷を遲らしたのであるが依然として胸裡奥深く藏して居る決定案には變りなきばかりでなく近く町民側の安心すべき解決を下んとの事にて平町民に對してよく其の旨を傳へて貰ひ度との由であつたと

磐城中學校の學級增加決定

秘密に一學級

磐城中學校學級增加問題は大瀧發電所問題に關して去る二日知事に面會して來た伏見助役の談に依ると知事は平電氣の栗原以下が收監されて爲め同社より徵すべき取扱上の書類が纏らなかつた關係で其裁斷を遲らしたのであるが依然として胸裡奥深く藏して居る決定案には變りなきばかりでなく近く町民側の安心すべき解決を下んとの事にて平町民に對してよく其の旨を傳へて貰ひ度との由であつたと

常磐片々

○

愈々今度は知事も本氣になつて大瀧發電所問題に對する鐵槌を下すらしい

○

待ちこがれらす處に値打ちがあるんだ

○

どうぞ腰を落ち付けてシッカリとお願ひしたい

○

伏見助役なんかは知事から色よい返事があつたとニコ〳〵喜ぶ

○

同問題に對する知事の一ぺん一笑が此位へに平町民のを頭支配する、どうぞシッカリお願ひしますよ

新川に流れる粉炭

一日で優に二圓の收入

新川の流心をたどつて上流の炭礦地から流れて來る粉炭の數量はあながち馬鹿に出來ないものである、その爲めに四季を通じて尼子橋附近の川の中に之れを拾つて世渡りの代とする人々も多いがその最も多く採取されるのは何んと云つても雨上りの一週間で夫れから漸次減つて行くのが常である

平小林區署の製板工場竣工

十七日開所式

平小林區署にては石城郡上小川村國有林地内にペルトン水車備付の製板工場を建設中であつたが此程竣工し來る十七日開所式を施行する由、因に同工場は一ヶ年の製材能力三千石を有し職工百五十名を雇入るゝと

紙袋製造機械

石城郡磐崎村醫師久田克位氏外二名は今回紙袋製造業甲子堂を設立し最新式機械を購入したが同機の据付を了せば一分間に百數十枚を製作し得る由

＋　×　×

平驛員をナグつて暴れる大力無雙の泥醉漢

漸く高木本社員が取押ふ

暴漢仲間も檢束

石城郡寺間村古河炭礦坑夫山形縣東置賜郡山口七五郎（四四）は前記炭礦が廢坑となつた爲め昨日ヤケ酒を仰つて泥醉し他に轉住せんと午後一時頃平驛に至り手荷物を預くる際言葉の行違へから立腹し同宅に亂入して驛員數名を毆り付け益々荒れ狂ふより增子巡査が取押へんとしたが腕力人並以上で流石の同巡査も跳ね飛ばされるゝ騷ぎに誰一人手を着くる者なき爲め七五郎は一層增長し尚も暴力を揮つて暴れ廻る折柄通り掛つた高木本社員が同人を張り倒して增子巡査と共に漸く取押へ平署に拉致し檢束したが此事をきゝ知つて七五郎の兄弟分と稱する坑夫茨城縣多賀郡生れ宇都野勘次郎（三八）が平署に暴れ込み『七五郎を返せ』と怒鳴つた爲め是れ又同署に檢束された

偽記者の無賴漢一掃

平署が取締る

平町地方に新聞記者と自稱し何れの新聞社にも籍を有せずして跋扈跳梁して不良を働く輩があるので一般町村民の苦痛とする處であるが是れがために實際の新聞關係者まで玉石混交されて新聞記者の被る迷惑も並一通りでない爲め此種の無賴漢を取締るべく平署は是れが一掃を期して取調べを開始した

平驛にて列車に投石

窓硝子を破壞

三日午後五時半上り四百五十六列車が平驛に進入の際ホームに列車待合せ中に十五六歳位の學生が列車目がけて投石したので前部から三輛目の三等車の窓硝子を破壞したが幸ひ乘客に異狀なかつたが乘客總立ちとなり大騷ぎ中件の學生は姿を晦したので平驛長から平署へ訴へ目下犯人搜査中

鄉土文化會報

植竹源太郎翁を中心として組織された鄉土文化會は昨夜植竹翁宅にて理事會を開き會報發刊の件を決定したと

國有林問題で森林主事取調

平署にて終日

平小林區署川前森林主事後藤繼信氏は同區下桶賣地内に於ける數年前の國有林拂下げ問題に關し三日平署に呼び出され終日取調べを受けた

煮出しの取り方

煮出しの取り方は鍋に水四合を煮たゝせ、削つた節を茶椀に一杯程入れ二三分間も煮ますと上に、白い泡が浮びますから、之を杓子ですくい捨て直ちに鍋を下ろして十分間も其まゝ置き水のゆで粕をこし器に入れ清んだ所を用ゐるのです、尚又こし粕を再び鍋に入れ水を入れて煮出して二番出しを取りますと種々の下煮に用ゐられます。なほ其の粕は砂糖と醤油とで程よくにつけますとおかずになります

▲蓮根菊くるみ和　菊の花をむしり鹽水にて洗い熱湯にてゆで度々水をかへしぼつておく、蓮根は皮をむき薄く切り鍋に鹽砂糖と酢を入れて煮て冷まし、別に胡桃をすりつぶし酢にてゆるめ菊と蓮を和へます

から晴天の續く事とは此の商賣にとつて何よりの禁物である、一俵廿錢で廿俵、これが二人一組二日間の平均收入で雨季には一人優に二圓位のみいりがあると

磐城丸が漁場を探險

秋刀魚を漁獲

小名濱水産試驗場所有磐城丸は四日漁場探險の爲め出帆したが秋刀群は金華山沖卅海里の邊りにあり三日四倉船五隻は二萬乃至八萬尾を漁獲し一尾五錢の水揚相場で取引されたなほ魚群は本縣の沖合を素通りして茨城縣久慈沖合にあるとの報があつた

佐藤撿事に記念品を贈呈

仙台へ榮轉する佐藤撿事に對し平町の有志相圖つて記念品を贈るべく目下その資を募集中であるが發起人は左の如くである

伊坂員正、伊藤儀七、臼井武松、梅村馨、山崎與三郎、酒井喜代止、水野虎三郎、白井一郎、新田目善次郎

好間村國稅收入減

古河の廢坑で

石城郡好間村に於ける國稅營業稅納稅者は各業態を通じ十三年度中合計七十七件内賣上げ總額二千圓以上に達し物品販賣業者として課稅を受けた者六十一件、此の賣り上げ合計十九萬七千圓、稅額八百七十六圓を算し之等は何れも古河堅坑の從業者に關係を有せざるものなく今回の休山により國稅營業者として失格するもの少なからず十四年以降の國稅收入上にも大影響を來すと

平町人事

▲出生

△南町　鈴木留之助氏二女キミイ

三女ミサチ

△紺屋町　吉濱友吉氏三男保夫